



平成17年2月17日

各位

株式会社T & Dホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T & Dフィナンシャル生命保険株式会社

「平成17年3月期 第3四半期財務・業績の概況」のお知らせ

T & D保険グループ(T & Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T & Dフィナンシャル生命)の平成17年3月期 第3四半期(平成16年4月1日~12月31日)の財務・業績の概況について以下のとおりお知らせいたします。詳細は、次ページ以降をご参照ください。

契約業績(生命保険会社3社単純合算)

生命保険会社3社合算の契約業績は概ね順調に推移しました。

- ・新契約高は、6兆930億円となり、前年同期から0.6%増加しております。
- ・解約失効高は、3兆7,672億円となり、前年同期から7.0%減少しております。
- ・保有契約高は、59兆5,796億円となり、前年度末から1.8%増加しております。

これは、大同生命の個人定期保険、太陽生命の「保険組曲」(平成15年4月の発売以来、累計成約件数22万件を突破)がともに好調に推移したこと、大同生命およびT & Dフィナンシャル生命の解約失効高が減少したことによるものです。

なお、T & Dフィナンシャル生命の主力商品である変額個人年金保険は、新商品の投入の遅れもあり、新契約は伸び悩みとなりました。

損益関係(T & Dホールディングス連結)

- ・経常収益は1兆7,564億円となりました。
- ・経常利益は832億円となりました。
- ・四半期純利益は316億円となりました。

【お問合せ先】

株式会社T & Dホールディングス	総務部(広報担当)	熊谷 寛	03-3231-8685
太陽生命保険株式会社	広報室	長嶺 秀一	03-3231-8634
大同生命保険株式会社	広報課	垣本 英彦	03-3281-1148
	大阪広報課	市村 秀史	06-6447-6258
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報室	伊藤 隆之	03-3593-8100

[契約業績 (個人保険・個人年金保険)]

(単位 : 億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比
新契約高	60,930	0.6%増	23,939	2.1%増	34,706	3.4%増	2,284	35.5%減
解約失効高 (解約失効率)	37,672 (-)	7.0%減 -	10,662 (6.63%)	4.0%増 0.09ポイント低下	23,718 (6.04%)	9.4%減 0.62ポイント低下	3,291 (10.50%)	19.5%減 1.83ポイント低下

(注) 1. 新契約高には転換による純増加を含んでおります。

2. 当第3四半期の解約失効率は、年換算しておりません。

(単位 : 億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期末	前年度末比	当第3四半期末	前年度末比	当第3四半期末	前年度末比	当第3四半期末	前年度末比
保有契約高	595,796	1.8%増	169,510	5.4%増	396,773	1.0%増	29,511	5.9%減

< 3社単純合算 >

- ・新契約高は、6兆930億円となり、前年同期から0.6%増加しております。
- ・解約失効高は、3兆7,672億円となり、前年同期から7.0%減少しております。
- ・保有契約高は、59兆5,796億円となり、前年度末から1.8%増加しております。

太陽生命

- ・新契約高は、2兆3,939億円、前年同期から2.1%の増加(前第3四半期は同34.4%増)。
- ・解約失効高は、1兆662億円、前年同期から4.0%の増加。解約失効率は、6.63%、同0.09ポイント低下。
- ・保有契約高は、1兆69,510億円、前年度末から8,731億円、5.4%の増加。うち個人保険は、1兆26,385億円、前年度末から1兆606億円、9.2%の増加。
- ・新契約高および保有契約高の増加は、引き続き「太陽生命の保険組曲」の販売が好調に推移していることが主因。当第3四半期までの「太陽生命の保険組曲」の新契約件数は、10.9万件(前年同期から17.7%増。平成15年4月の発売からは累計成約件数22万6,200件。)新契約高は、1兆8,302億円(前年同期から6.6%増)となった。

大同生命

- ・新契約高は、主力の個人定期保険が好調に推移し、3兆4,706億円、前年同期から3.4%の増加。
- ・解約失効高は、2兆3,718億円、前年同期から9.4%の減少。解約失効率は、6.04%、前年同期から0.62ポイントの低下。
- ・保有契約高は、39兆6,773億円、前年度末から3,825億円、1.0%の増加。うち、主力の個人定期保険の保有契約高は、3兆4,360億円、前年度末から4,719億円、1.3%の増加。

T & Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、主に死亡保障商品から医療保障商品へのシフトと年金原資保証商品投入の遅れのため2,284億円、前年同期比35.5%の減少。なお、変額個人年金の新契約高は357億円、前年同期比53.4%の減少。
- ・解約失効高は、主に旧東京生命契約の解約鎮静化により3,291億円、前年同期比19.5%の減少。
- ・保有契約高は、2兆9,511億円、前年度末から、1,845億円、5.9%の減少。なお、変額個人年金の保有契約高は2,141億円、前年度末から390億円、22.3%の増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比
経常収益	17,564	-	8,789	5.8%減	7,952	6.6%減	907	-
うち保険料等収入	13,153	-	5,786	4.7%減	6,559	6.0%減	808	-
うち資産運用収益	2,394	-	1,299	32.5%減	1,032	24.8%減	73	-
経常費用	16,732	-	8,605	5.3%減	7,255	6.6%減	947	-
うち保険金等支払金	13,918	-	7,254	0.1%減	6,100	6.3%減	563	-
うち資産運用費用	637	-	419	50.1%減	227	32.4%減	3	-
経常利益(損失)	832	-	183	26.8%減	696	6.7%減	39	-
特別利益	30	-	71	484.6%増	74	141.2%増	0	-
特別損失	96	-	71	218.9%増	18	66.8%減	6	-
契約者配当準備金繰入額	340	-	86	14.7%減	243	7.9%増	10	-
四半期純利益	316	-	58	24.2%減	231	25.0%減	113	-

(注) 1. T & Dホールディングスの各数値は連結数値のため、生命保険会社3社の単純合算とは一致しない場合があります。

2. T & Dホールディングス連結およびT & Dフィナンシャル生命の前年同期比は、前第3四半期の数値がないため、記載しておりません。

< T & Dホールディングス連結 >

平成16年11月18日に公表した通期業績予想数値に向け、順調に推移しています。

- ・ 経常収益は1兆7,564億円となりました。
- ・ 経常利益は832億円となりました。
- ・ 四半期純利益は316億円となりました。

太陽生命

- ・ 保険料等収入は、主に貯蓄性商品の保険料減少により、5,786億円、前年同期から4.7%の減少。
- ・ 資産運用収益は、主に利息及び配当金等収入、有価証券売却益の減少などにより、1,299億円、前年同期から32.5%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に有価証券売却損の減少などにより、419億円、前年同期から50.1%の減少。
- ・ 経常利益は、183億円、前年同期から26.8%の減少。
- ・ 特別利益は、71億円、前年同期から484.6%の増加。増加は主に、中間期においてT & Dホールディングス株式売却益58億円を計上したため。
- ・ 特別損失は、主に不動産の処分損の計上により、71億円、前年同期から218.9%の増加。
- ・ 四半期純利益は、58億円、前年同期から24.2%の減少。

大同生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険の減少により、6,559億円、前年同期から6.0%の減少。なお、主力の個人定期保険の高伸展により、個別保険(個人保険・個人年金保険)の保険料は前年同期から3.3%の増加。
- ・ 資産運用収益は、主に有価証券売却益の減少により、1,032億円、前年同期から24.8%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、主に団体年金保険の支払金の減少や個人保険の死亡保険金の減少により、6,100億円、前年同期から6.3%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に金融派生商品費用の減少により、227億円、前年同期から32.4%の減少。
- ・ 経常利益は、696億円、前年同期から6.7%の減少。減少は主に、有価証券売却益等のキャピタル損益が減少したため。
- ・ 特別利益は、74億円、前年同期から141.2%の増加。増加は主に、中間期においてT & Dホールディングス株式売却益58億円を計上したため。
- ・ 四半期純利益は、231億円、前年同期から25.0%の減少。減少は主に、経常利益の減少に加え、中間期に実施した過年度計上の繰延税金資産の一部取崩しなどにより法人税等調整額が前年同期に比べて91億円増加したため。

T & Dフィナンシャル生命

- ・ 保険料等収入は、808億円。資産運用収益は73億円。
- ・ 保険金等支払金は、563億円。資産運用費用は3億円。
- ・ 経常損失は、39億円。経常損失となった主な要因は48億円の営業権の償却。(営業権の償却は平成18年3月期で終了。)
- ・ 四半期純利益は、113億円。T & D保険グループは、平成16年度から連結納税制度を適用。四半期純利益は連結納税制度を適用しない場合に比べ、約170億円増加。これは連結納税に係る税効果会計の適用によるもの。

[総資産]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減
総資産	129,914	-	62,635	1,459	59,758	420	7,103	280

(注) 1. T & Dホールディングスの数値は連結数値のため、生命保険会社3社の単純合算とは一致していません。
2. T & Dホールディングス連結の前年度末比較増減は、前年度末の数値がないため、記載していません。

< T & Dホールディングス連結 >

・総資産は、1兆9,914億円となりました。

[その他の指標]

(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期	前年 同期比	当第3四半期	前年 同期比	当第3四半期	前年 同期比	当第3四半期	前年 同期比
基礎利益	953	-	238	26.0%減	747	1.0%減	32	-
逆ざや額	537	-	309	49.1%増	191	14.9%増	36	-

(注) 3社単純合算およびT & Dフィナンシャル生命の前年同期比は、前第3四半期の数値がないため、記載していません。

(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			877.4%	14.1ポイント上昇	1,025.3%	9.6ポイント低下	1,399.6%	414.8ポイント上昇
実質純資産	11,375	184	4,382	136	6,531	205	461	114

< 3社単純合算 >

- ・基礎利益は、953億円となりました。
- ・逆ざや額は、537億円となりました。
- ・実質純資産は、1兆1,375億円となり、前年度末から184億円増加しております。

太陽生命

- ・基礎利益は、238億円、前年同期から26.0%の減少。
- ・逆ざや額は、309億円、前年同期から49.1%の増加。
これらは主に、昨年度の特種要因（住宅ローンの証券化に伴う譲渡益など）がなくなったことによる。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、877.4%、前年度末から14.1ポイント上昇。これは主に、その他有価証券の評価差額が減少した一方で、資産運用リスクが減少したことによる。
- ・実質純資産は、4,382億円、前年度末から136億円の減少。これは主に、その他有価証券の評価差額が減少したことによる。

大同生命

- ・基礎利益は、747億円、前年同期から7億円の減少。減少は主に、個人保険の死亡保険金が減少したものの、利息及び配当金等収入の減少などにより基礎利益に含まれる運用収支がそれを上回って減少したため。
- ・逆ざや額は、191億円、前年同期から24億円の増加。増加は主に、平均予定利率の低下による予定利息負担の減少があったものの、基礎利益に含まれる運用収支がそれを上回って減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,025.3%、前年度末から9.6ポイントの低下。低下は主に、資産運用リスクが増加したため。
- ・実質純資産は、6,531億円、前年度末から205億円の増加。増加は主に、四半期純利益の積み上げにより資本が増加したため。

T & Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、主に営業権償却と逆ざやにより32億円。
- ・逆ざや額は、36億円。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、主に連結納税に伴う税効果等による資本等の増加のため1,399.6%、前年度末から414.8ポイントの上昇。
- ・実質純資産は、主に連結納税に伴う税効果等による資本等の増加のため461億円、前年度末から、114億円の増加。

[差損益関係]

(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減	当第3四半期末	前年度末 比較増減
有価証券差損益	4,106	153	1,553	135	2,523	31	29	13
うち公社債	1,041	47	212	76	803	45	25	16
うち株式	2,283	94	1,043	26	1,239	67	0	0
うち外国証券	387	103	265	152	127	46	5	3
土地等の差損益	220	7	89	1	131	8	-	-

(注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を含めて記載しております。

2. 太陽生命の有価証券差損益の前年度末比較増減は、内外株式の時価および外貨建資産の為替を、前事業年度末は平成16年3月の月中平均、当第3四半期末は期末時点により算出しております。

3. 太陽生命の土地等の差損益は、公示価格等をもとに算出しております。

4. 大同生命の土地等の差損益は、原則として鑑定評価額（重要性の低い物件等については公示価格）をもとに算出しております。

< 3社単純合算 >

有価証券差損益は、4,106億円となり、前年度末から153億円減少しております。

太陽生命

・有価証券差損益は、1,553億円、前年度末から135億円の減少。

大同生命

・有価証券差損益は、2,523億円、前年度末から31億円の減少。

T & Dフィナンシャル生命

・有価証券差損益は、29億円、前年度末から13億円の増加。

(参考)平成17年3月期通期業績予想

平成16年11月18日に公表いたしました業績予想から変更はありません。
参考として、同日公表の業績予想を再掲いたします。

T & Dホールディングス

(連結)

(単位：億円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
通期	23,030	1,070	400

(単体)

(単位：億円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
通期	260	210	220

生命保険会社3社(単体)

(単位：億円)

	太陽生命保険株式会社	大同生命保険株式会社	T & Dフィナンシャル生命保険株式会社
経常収益	11,390	10,540	1,360
経常利益	240	880	50
当期純利益	60	310	110

(単位：億円)

	3社単純合算	太陽生命保険株式会社	大同生命保険株式会社	T & Dフィナンシャル生命保険株式会社
基礎利益	1,250	310	980	40
保険料等収入	17,490	7,640	8,670	1,180
逆ざや額	740	430	270	40
新契約高	79,030	30,000	うち個人定期保険 46,000 44,200	うち変額個人年金 3,030 580
保有契約高	595,260	171,300	394,700 うち個人定期保険 354,400	29,260 うち変額個人年金 2,290
解約失効率(%)	-	8.9	8.5	12.9

(注)新契約高、保有契約高及び解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計であります。
また、新契約高には転換による純増加を含みます。

実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります